

397
横濱千八百七十年四月廿日

オリエンタル・バニシング・社中
ハロヘル・トリン君

今般新規送幣ノ事付政府布告書内申
有テ店廉々ノ内在ノ心付店趣ヲ尋覽
備

十
分
目

トルラ

トルラ^本と元位と四百十六ゲレンの目方より
 一ケレンより内外に精煉あるを則一トルラの目
 方より四百十四ゲレンより減せしめて四百十七
 ゲレンより越するを元位^本とするを
 純銀の性合と九分の一内外千分の二の精煉ある
 則純銀八分九厘の貨幣と九分の二毫の貨幣と
 口根より^本せり此精煉と正當の通則の
 一と送幣の^本せりと定ふ止むを以てする者

とせり右ふより割合と英國政府の命より
 香港の^本せりトルラと製造する處の割合
 あり

本位より^本銀貨幣の^本せり
 八十三ケレン二のトロイ目方を秤
 する^本銀と製造する最に純銀其位を今
 般製造の貨幣より^本印度海より送る
 其他の^本通商より^本思ふ^本せり

ても既小造幣法に依るに廿五セント銀は廿セント
 銀との間割の大きき并に自方の邊に少く其價
 英語より訛るゝ其つる價をふゑ
 却る既其土地の名則に廉價の
 者といふ條に通用する事ふゑる也其上英王
 官より寄ふる邊より時々廿セント銀は本位の
 最上と刻金とあり外金とあり量目
 並に金銀の質を考へるに於て至極は是なり

其目方を減じしより之が為政府の益を生ず

且次減其外輸送のノ費をも補ふ

金銀 其性合をれりしより金銀の價を比較

しより銀十五分と金の一分の差なりたの

最目と異一刻の利益を見しむるなり

金銀十兩 二万四千八百八十二兩 性純 九分

金銀五兩 万七千四百四十一兩 性合 八分

金銀二兩 三千四百八十二兩 性合 七分

此貨幣は銅銀の品位ある銀貨幣に比

較し割合なり 性合は銅銀の品位ある銀貨幣に比

十分二厘なり

銀貨元位より五分の一より十分の一

代り金銀の銅銀の品位ある銀貨幣に比

グレートロイはヤント銀と五分の差あり

十分の一の代り銅銀と四分の差あり

て此銅銀とポイントとを秤量し定例

庚

鋼鐵の
増名
と
純鋼
と
を
示す

佛、伊多利、上、格、英、各、港、亦、之、移、
来、之、信、方、小、基、に、銅、鐵、之、便、之、英、本、國、
之、鑄、造、故、に、取、極、之、為、之、事、也、
思、ふ、に、亦、之、商、之、事、也、金、之、一、時、の、補、
之、皇、王、之、帝、向、開、向、上、機、械、類、充、
之、整、之、上、之、銅、鐵、鑄、造、之、方、一、に、
施、業、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
金、銀、鐵、金、之、之、之、之、之、之、之、之、

五五五

4

夕霧

粉白

白くしろく

一説

しろくしろく